

第 63 回 愛知県河川整備計画流域委員会 現地視察
(老津) 境川、紙田川 議事要旨

実施日：平成 30 年 1 月 18 日（木） 午後 1 時 00 分～午後 17 時 00 分
実施河川：(老津) 境川、紙田川

1. 開会

2. 意見

【(老津) 境川】

○委員

- ・水が濁っていたが、沿川の側溝に泥がたまっていたため、降雨時に、その泥が川に流れ込んでいるのではないか。

○委員

- ・なぜ樋門の断面が小さいのか。

○事務局

- ・樋門が設置された昭和 36 年以前の計画を基に設計されているため、現在想定している年超過確率 1/5 の流量よりも不足している。

○委員

- ・整備のメインは笠松樋門の対策と思われる。

○委員

- ・在来種についても整理をしておくべき。また、外来種であるミシシippアカミミガメが多く見られたため、写真を次回の資料に記載してほしい。

【紙田川】

○委員

- ・河口部の左岸側が津波浸水の想定される区域とのことだが右岸側は浸水しないのか。

○事務局

- ・右岸側も津波により浸水するが人的被害までは発生しないと想定している。

○委員

- ・豊橋鉄道橋の桁下が低いと思われるが、桁下高は足りているのか。

○事務局

- ・桁下高は計画高潮位を下回っている。

○委員

- ・治水上、過去に被害のあった河口部が問題だと思われる。上流端については流下能力が低い、堤内地の状況を踏まえて整備を位置付けてはどうか。

○委員

- ・ネック地点は鉄道部だけのように見える。鉄道地点の解消についてはどのような方法があるか検討が必要である。また、護岸上の土砂堆積、樹木の維持管理が気になる。

○委員

- ・豊橋鉄道下流部の多自然的な景観が良い。

○委員

- ・水がきれいな印象である。水路のような河川であり、多自然に配慮してほしい。

【共通】

○委員

- ・今回の対象は典型的な農村を流れる河川であり、市街地など優先度が高い河川での整備計画の策定率が向上してきた証かと感じる。

4. 閉会